

先祖供養という素晴らしい伝統文化を残す それが使命だと思っています



谷田部石材販売
代表取締役社長 谷田部 修さん

明治3年5月に創業。今年で139年になる「谷田部石材販売」。「石のやたべ」としてもなじみ深い老舗石材店です。お墓を建てることだけではなく、核家族化が進むと共に薄らいできた“先祖供養”の心を育てる活動をしている同社。そのおもいやお墓にまつわる話を、代表取締役社長の谷田部修さんに伺いました。

「谷田部石材販売」社長の谷田部修さん

昔はお墓を守る、家系を守るということが、当たり前のことでした。そして、日本人には「ご先祖様に申し訳ない」という道徳心が、当然のものとしてありました。でも、それが廃れてきていると思うんです。

以前、作家の藤本義一さんが少年院を慰問していた際、收容されている少年たちの家に仏壇があるか、聞いてみたことがあるそうです。そうしたら、仏壇のある子は一人もいなかったというんですね。一概には言えないかもしれませんが、先祖に手を合わせるという行いは、子どもの心に道徳心を宿す役割もしているんだと思うんです。

今の若い人の中には、「自分には先祖がない」なんて言う人までいま

す。でも、先祖がないなんて人はいないでしょう？人は人からしか生まれてきませんし、人は死んだら必ず先祖になるわけですよ。

先祖を供養する、お墓参りに行くというのは、日本の伝統文化でもあります。お盆やお彼岸は言うまでもありませんが、初詣（もうしとぎ）だって元は先祖参りの一つなんです。

よ。人は死んで30年、50年経つと魂が浄化され、氏神様になると信じられてきました。ですから、氏神様に手を合わせるのには、先祖に手を合わせているのと同じなんです。

お墓参りは日本人の心

うものが消えてしまったら、道徳心だけでなく、日本人の心がなくなってしまうんです。でも、それではいけない。だから私たちは、先祖供養の心を育てていくのが使命だと思っています。

先日、県内の全高校に民俗学者・柳田國男の「新訂『先祖の話』」を寄贈しました。復刻に際して私も協力した本なのですが、今の高校生にこそ読んで欲しい内容なんです。3月には芥川賞作家で福聚寺住職でもある玄侑宗久さんの講演会も行います。

こういった活動を通じて、お墓参りや先祖供養の大切さを伝えて行きたいと思っています。お墓は先祖との交流の場。先祖供養は心を豊かにするものですから。



去年リニューアルした「北山ショールーム」。墓石などが展示されているほか、お盆行事も行えるスペースがあります

